

## 開催にあたって

日本生命財団は昭和54年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマとして、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでの**30年間、今年を含めると累計で940件、助成総額24億200万円**に達しています。

当財団はこれらの研究がさらに進展し、研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてこのテーマに関心をもたれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で第23回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは「**人間活動と環境保全との調和に関する研究- 水、その循環の健全性と豊かな環境を求めて-**」を募集課題とする学際的総合研究助成に採択された研究チームからその研究成果をご報告いただきます。

近年、人間活動にともなう水源地域の森林の荒廃、水の大量利用と汚染などにより、水循環、水質が悪化し、農業や上下水道等に伴う人工的な大量の水移動も含めた「**拡大流域圏**」の健全性をとりもどすことが課題となっています。

今回発表いたします研究は、立場・利害を異にする関係者（住民・NPO・行政・研究者等）が、複雑で輻輳しかつ運命共同体化の単位である拡大流域圏をより正確に認識・把握し、その情報共有を可能にする「**空間情報プラットフォーム**」を構築し、この神奈川県を対象にした「**空間情報プラットフォームのプロトタイプ**」を使って、**拡大流域圏の水循環・社会経済・自然生態系の相互関係の解明や課題解決策、目標像の策定、および健全な流域環境構築の主体となるコミュニティの形成などにおける空間情報プラットフォームの有用性、活用手法を提示していく**ものです。

まず最初に、代表研究者の横浜国立大学大学院の佐土原教授から、研究の趣旨を説明いただき、次に4名の方々からそれぞれ問題提起いただきます。休憩の後に「**空間情報プラットフォームの構築内容**」の説明と、この「**空間情報プラットフォームを使った成果報告**」を4名の方々から行っていただきます。その後、休憩を挟みまして、「**空間情報プラットフォーム**」の活用の可能性について、研究者・行政・市民活動家の方々にそれぞれの立場からご討議いただきたいと思います。

今回のワークショップの開催が「**自然環境と調和した社会の実現**」のために、私たちが今取り組むべきことをご理解いただき、これからの環境・地域・社会の再生・保全に取り組むための第一歩を踏み出すきっかけとなつていただくことを強く願っています。